

令和六年度 入学式「式辞」



桜の花と木々の新緑、この生気みなぎる春の日に、育友会副会長 森 磨耶様
津幡町町議会議員 町議会議長 八十島 孝司様 津幡町教育委員会 教育委員
鳥越 千春様 渡邊 加寿子様にご臨席を賜り、ここに、令和六年度の本校入学式
を挙行できますことは、新入生はもちろん、私たち教職員にとりまして、大きな喜
びでございます。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今ほど学級担任の呼名に、元気よく、立派な態度で返事をしてくれた百八十一名の
皆さんは、今日から創立七十六年目の、伝統ある津幡中学校の生徒となりました。皆
さんの胸の中は、今、新しい希望と期待で一杯だと思えます。また、一方で、新しい
生活への不安があるかもしれません。しかし、こうして壇上から一人一人の真剣な眼
差しを見ておきますと、中学生としての決意をうかがい知ることができ、本当に頼も
しく、またうれしく思います。

本日、中学校の入学にあたり、私から皆さんに三つのことをお願いします。

まず、一つ目は、「さわやかな挨拶ができる人」になってほしいということです。

先週5日に新入生オリエンテーションがありました。教室に向かう廊下や階段です
れ違った皆さんは、誰もが「こんにちは」とさわやかなあいさつを、私よりも先にし
てくれました。とても素敵で心が温かくなりました。さわやかな挨拶が響く明るい学
校は、津幡中学校が目指すことのひとつです。あいさつは、人と人の心を繋ぐとても
大切なコミュニケーションの基本です。さわやかな挨拶が飛び交う、そんな明るく素
敵な学校、地域をいっしょに創っていきましょう。

二つ目は、自分の可能性を信じ、自分の夢や目標に向けて、「粘り強く努力を続け
る人」になってほしいということです。皆さんには一人ひとり、無限の可能性があり
ます。しかし、自身の限界を自分で決めてしまったり、途中であきらめたり、投げ出
したりしてしまえば、その可能性を伸ばすことはできません。大事なのは決して才
能だけではなく、「やり抜く力」なのです。自分の夢や夢中になれることを見つけ、
その目標に向けて、「粘り強く努力し、やり抜こうとした人」は、中学校での3年間
で大きく成長するでしょう。先生方は、そんな皆さんを、全力で応援します。共に頑
張りましょう。

三つ目は、自分のことはもちろん、周りの人を大切にできる「思いやりの行動がとれる人」になってほしいということです。「こころ」は誰にも見えませんが、「こころづかい」は、はっきりと見えます。「思い」は見えませんが、「思いやり」は、誰にもはっきりと見えます。しかし、思いやりの心や、気持ちをもっていても、それを行動として行わなければ、そのような思いや気持ちを持っていることは相手に伝わりません。ぜひ、人を思いやるその優しい心や気持ちを、勇気を持って積極的に行動として表してください。人は、みんな違います。ひとりとして同じ人はいません。お互いの違いやよさを認め合える温かい関係を築いていってください。

この津幡中学校が、笑顔のあふれる、「安全に安心して学ぶことのできる魅力のある学校」となるよう、2、3年生の先輩たち、先生方と力を合わせて、歩みを進めていきましょう。

さて、ご列席の保護者の皆様、本日は、お子様のご入学おめでとうございます。本校の全職員で、責任をもってお子様の教育に全力であたらせていただきます。中学生は思春期真只中であり、ご家庭でも扱いが難しい場面があるかもしれません。そんなときは、子どもに遠慮することなく、「だめ」なものは「だめ」としっかりと話をしてください。また、お子様が努力していることや頑張ろうとしていることを認め、心から褒め、応援してあげてください。お子様の自立と健やかな成長のために、学校と家庭がそれぞれの役割を果たしながら、共に連携していきましょう。今後、お子様のことで、気になることがありましたら、遠慮なく本校教職員に相談してください。

結びになりますが、新入生の皆さんが、津幡中学校の生徒として、明るく元気に充実した生活を送ることができることを心から願い、式辞といたします。



令和六年四月八日

津幡町立津幡中学校長 泉 智一